

一寸先は闇。私が膀胱（ぼ
うこう）がんを自身で発見し
たとき、浮かんた言葉です。

読者の皆さんも、新型コロナ
ウイルスについて、同じこ
とを感じているはず。今
年の初めまで、誰がこんな事
態を予測したでしょうか。コ
ロナショックの収束も闇の中
で、世界中がこのウイルスに
恐怖しています。正直、私も
その一人です。

このウイルスが怖いのは、
感染力や致死率が高いだけ
ではありません。感染しても8
割方が軽症あるいは無症状で
すむ半面、重症化する人も一
定の割合でいる点です。この
ウイルスの「ロシアンルー
レット」的な面が私たちを不安
に駆り立てます。

がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

突然、幕が下ろされること
なるわけです。

さらに、火葬場で故人の骨
を拾うことも困難です。つい
最近まで元気だった人が数日
で亡くなってしまふのですか
ら、「突然死」に近い経過と
も言えるでしょう。

日本人の理想の死に方は
「ピンコロ」（ピンピン元気
でコロッと死ぬ）型だといわ

ぼ寿命ですから、医療費の節
約にもなるかもしれません。

一方、がんによる死はピン
コロ型の対極にあります。が
んは治らない場合でも、徐々
に死に向かっていく病気で
す。転移があつて完治はでき
ないと言われたとしても、多
くの場合、年単位の時間が残
されます。

また、がんの場合には、余
命をふくめて、ある程度、先
々のことを見通すことが可能
ですから、残った時間を活用
することもできます。

がんにおける「死の予見性」
は死の恐怖と長く向きあつこ
とを意味します。それでも、
私は「がんで死にたい」と心
から願っています。

（東京大病院准教授）

新型コロナウイルスで考える死の恐怖

さらに怖いのは、この病気
で亡くなる場合、発症から死
亡までが非常に早い点です。
イタリアのデータでは平均で
わずか8日間。日本中に衝撃
を与えた志村けんさんの場合

でも、発症から10日あまりで
帰らぬ人となりました。

しかも、隔離された状態で
治療が行われるため、家族や
友人と最後の時間を過ごすこ
ともかありません。人生に、

れます。突然、死んでしまえ
ば、たしかに苦しい思いをす
る時間は短くてすみませぬ。死
ぬことを意識せずに、生きて
いられるから、死の恐怖とも
無縁でしょう。健康寿命はほ